

黄体検査ホルモンに係る一般用検査薬ガイドライン(案)について  
武谷委員から提出されたご意見

- 社会環境の変化により、女性の生活スタイルにも変化がみられるところ。妊娠を希望し、排卵日に合わせて計画的に性行為を行う場合に、当該検査薬は有益であろう。
- 基礎体温とは別の、排卵日予測の参考情報の1つになるため、製品として意味がある。
- 当該検査薬は、検査薬を使っていない段階で、妊娠を望んでも数ヶ月妊娠できないという様な方が対象と思われる。
- 生理周期が不順な方や不妊治療をしている方は、使用しないよう注意が必要。また、常にLHが多く分泌する方や閉経された方は、正しい検査結果が得られないため、医師の診療を受けて頂く必要がある。
- 当該検査薬で排卵日を予想しても妊娠しないことが数回続いた場合は、他の原因が疑われるため、医師の診療を受けて頂く必要がある。
- 課題としては、正しい使い方を使用者に理解して頂くこと。
- 使用者への適切な情報提供が必要になるので、添付文書案を一般の方が読んだ場合に理解度が高いというのは、重要なこと。
- 晩婚化が進めば妊娠に不安を持つ方も増えてくる。当該製品が、そういったヒトの助けになればと思う。